山 行 報 告 書

報告書作成	2007年10月9日

山名 [山域]	芦廼瀬川 [大峰山系]	目的と方法	沢登＆縦走
登山期間	10月5日(金) ～7日(日)[前夜発]	山行形態	テント泊
参加人数	3名		

行動記録

10月4日 (木) 曇
刈谷総合運動公園(2020)==豊明IC(2030)==郡山IC(2330)==古野植物公園P(200)
10月5日 (金) 晴
P(750)--東屋(820)--七泰の滝(855)--焼ぐらの淵(1300)--8mの滝(1330,1450)--TS(1630)
10月6日 (土)晴
TS(755)--細谷(930)--堰堤 (950) --林道(1145)--持経の宿(1525)--平治の宿(1630)
10月7日 (日)曇
平治の宿(705)--行仙の宿(1000,1030)--笠捨山 (1200,1230) --貝吹金剛(1505)--P(1625,1640)==
十津川温泉、夕食、郡山IC、豊明IC、刈谷総合運動公園(2300)

概念図

日誌

刈谷で集合し、十津川まで長距離ドライブ。古野の植物公園駐車場で軽い前夜祭後、就寝。
植物公園から七泰の滝まで遊歩道の案内があったので、ところどころ荒れた道を時々、
蛭と会話をしながら東屋のようなところにつく。
ここからの道が見当たらない。このまま進めば、断崖のような厳しい下降が強いられる。
ガイドブックにあるダムまで戻るかどうか迷う。リーダの判断で、少し戻った沢筋から懸垂下降を試みると、
遊歩道が現れ、七泰の滝まで行けた。スケールの大きな沢の始まりである。
今回はウェーダーを履いているのでそんなに冷たくない。
10月という微妙な時期ではあるが水量の比較的少ないこの時期を選んだのは大正解である。
核心部の7mの滝はリーダーが空身で下部まで泳ぎ、カム、アブミをセットしながらルート工作をする。
つるつるの岩場を慎重に登る。ロープが無ければ恐ろしいところである。
核心部を超え、本日のテン場を探しながら歩く。
途中、自分には難しい岩場で2～3mほど墜落してお尻を強打してしまった。
しばらくうずくまり、何とか立ち上がることができ、ホッとした。
つかんだ岩が落ちそうだったので手を離してしまったのだ。気をつけねば‥‥。
左岸にひと張り分のスペースを見つけ、今夜のねぐらとする。
尽きることのない話に明日の分の酒まで手をつけてしまう。

翌日も泳ぎの連続で、段々と歯の根が合わなくなってくる。
この沢にはハヤと思われる魚が沢山いて、近寄っていっても逃げようともしない。
段々日が当たってくると、泳ぎも楽しくなってくる。
ザックの底に水抜き穴をあけないとかなり重くなるので、次回は穴をあけて臨むことにしよう。
吊橋を超え、右手の林道を上がり沢装備を外す。ザックはかなりの重量だ。
道を間違え、1時間ほどのアルバイトをしてしまったが、4時間ほどで、持経の宿につく。
今日の宿は平治の宿とし、後少しがんばることにする。
今日は残り少ない酒をちびちびとやり、尽きてからも、お茶、紅茶、コーヒーで宴会は終わらない。

少し寝坊をし、起きると、今日は霧で何も見えない。
昨日までの沢の中が晴天だったので感謝の気持ちすら覚えた。
朝食後、大目の水分補給後、奥駈道の縦走だ。
標高こそ1000m前半の山なのだが、起伏が結構あり、なかなかハードな山行である。
行仙の宿で管理人らしき人にビール、コーヒー、ゼリー、はんぺんをご馳走になり、くつろいだひと時をすごす。
まだまだ、道のりは遠い。休憩をところどころ入れ、駐車場につくと16時半であった。
帰りは十津川温泉で3日間の汗を流し、お尻の青あざをあらためて見ると、
本当にこれだけで済んでよかったと思った。

今回は沢、縦走ともにハードな、沢シーズン締めくくりには十分な山行でした。
自分としては春日井山岳会の方に連れてきてもらった感じが強い、難しい沢でした。
いつか自分がリードできる日を夢見て‥‥。